

秋田県産スゲ属の新雑種

著者	Fujiwara Rikuo
著者別表示	藤原 陸夫
journal or publication title	The journal of phytogeography and taxonomy
volume	35
number	2
page range	81-82
year	1987-12-25
URL	http://doi.org/10.24517/00056061

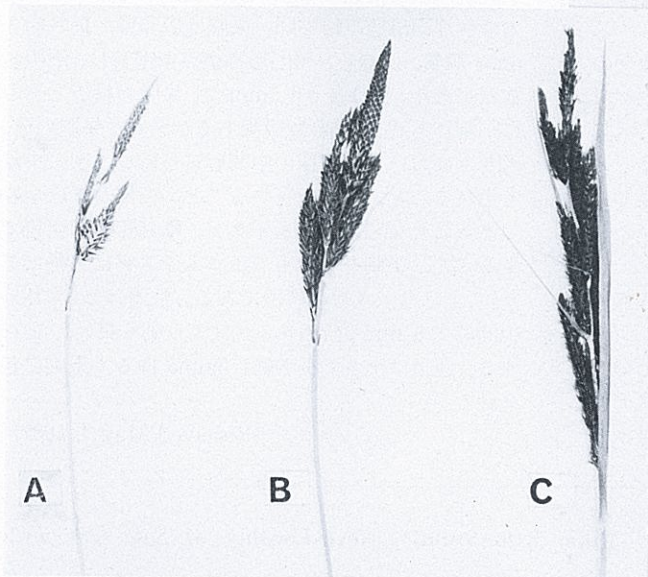
Rikuo FUJIWARA* : A New Hybrid of *Carex* in Akita Pref.

藤原陸夫* : 秋田県産スゲ属の新雑種

Carex × *akitaensis* FUJIWARA, hybr. nov., Fig. 1
Carex Middendorffii FR. SCHM. × *Carex sadoensis* FRANCH.

Rhizoma dense caespitosum raro breviter stoloniferum. Culmus ca. 30 cm altus firmus acute triquetrus scabriusculus. Folia rigidula 3-5 mm lata utrinque margineque scabra, vaginis subaphyllis rigidis brunneis parte luteo-fuscis vel purpurellis demum reticulatofibrosis. Spiculae 4-6 subconfertae erectae, superioribus 2-3 (-4)

Fig. 2 Spikelets, A: *Carex Middendorffii*, B: *Carex* × *akitaensis*, C: *Carex sadoensis* All were collected at the same spot. (ca. 1/2)



masculis vulgo linearibus 8-38mm longis fuscopurpureis vel nigricantibus, squamis masculis oblongis ca. 5 mm longis ca. 1.8 mm latis, inferioribus femineis 2-3, interdum ad apicem masculis, cylindraceutis vel fusiformibus 27-38 mm longis subsessilibus. Bractee imae foliaceae 4-7 cm longae. Squamae femineae lanceolato-oblongae 4-5 mm longae 1.3-1.5 mm latae acutae vel obtusatae fuscopurpureae nervis viridulis. Utriculi late ovati ca. 3 mm longi membranacei cinereovirides planoconvexi dense punctulati obsolete nervosi, rostro brevioris 0.5 mm longo,

Fig. 1 *Carex* × *akitaensis* FUJIWARA (ca. 1/3)



ore integro vel retuso cum margine saepe scabro. Achenia exigua ca. 1.5 mm longa. Styli firmi, stigmatibus 2, 4-5 mm longis persistentibus. Cum *Carex Middendorffii* et *C. sadoensis* haec hybrida nova comparanda est: ab anteriore spiculis femineis longioribus, pedunculis brevissimis erectis, stigmatibus persistentibus differt, a posteriore rhizomatibus dense caespitosis, stolonibus brevissimis, utriculis cinereoviridibus punctulatis obsolete nervosis, stigmatibus brevioribus differt.

Nom. Jap. Kazuno-suge

* 秋田県立大曲農業高等学校 Omagari Agricultural High School, Akita Pref. Japan

Hab. in Japonia-Pref. Akita: Beko-yachi, monte Hachimantai ca. 1100 m alt., Kazuno-shi (R. FUJIWARA, 6 Jul. 1986, Holotypus in KANA 120457)

秋田県鹿角市八幡平の通称ベコ谷地403396-14は、十和田八幡平国立公園との境界付近に位置する面積約1haの湿原である。海拔高度1,100m位でオオシラビソ林の下限域にある。相観的には湿原の大部分がヌマガヤの優占した草原状を呈する。アオモリミズゴケ、ワタミズゴケが高被度で生育する植分が存在し、タカネヒカゲノカズラ、ホロムイヌゲ、カワズゲ、ワタスゲ、コバイケイソウ、ハクサンチドリ、シロバナトウチソウ、コツマトリソウ、タテヤマリンドウ等を産する。地名が示すように、一帯はかつて牛の林間放牧が行われていたらしく、湿原中央部の小池塘は放牧牛の水飲場（沢水は温泉の影響が強い）として開掘した形跡があり、部分的に植生攪乱の残痕が認められる。

カズノスゲはこの池塘周辺において、ホロムイヌゲとサドスゲの混生集団中に見出された。現地での観察では、全体的な硬さ、小穂の形などの外観が、ホロムイヌゲとサドスゲの中間形質を顕著に示し (Fig. 2)、両種の種間雑種と推定した。なおサドスゲは、低海拔地の溪流縁等に生育するのが普通であり、ベコ谷地のサドスゲは牛による二次的所産の可能性が考えられる。

カズノスゲは株立状に密に叢生し、匍匐枝は無いが、あるいは濃褐色の鱗片に被われた太短かく（長さ3 cm以下）斜上する地下茎によって前年の稈基部とつながることがあり、地下部はホロムイヌゲに類似している。稈の高さは30cm位、集団中ではホロ

ムイヌゲよりもかなり低く、サドスゲに近い。稈の鞘はほとんど葉身を欠き、濃褐色、部分的に黄褐色、帯紅紫色で糸網を生じる。葉は幅3-5 mm、やや硬く、扁平。小穂は4-6個、接続し、ほとんど無梗（最下梗の長さ10mm以下）で直立することはサドスゲの特徴である。最下の苞は葉状、長さ4-7 cm。上方の2-3（-4）個の小穂は雄性、最上位の雄小穂は線形、長さ30-38mm、他はより小さい。雄花鱗片は長楕円形、円頭、長さ5 mm、幅1.5mm位、濃紫褐色、縁辺は薄質、中脈は細く淡色。葯は長さ2.5 mm。下方の2-3個の小穂は雌性で、しばしば先端に雄花をつけ、長さ27-38mm、円筒形-紡錘形、大きさと形は両母種の中間型。雌小穂雄花部の長さの変異など、同一株でも小穂の形質は不安定。まれに稈の基部から10cmに伸長した梗に、長さ8 cmに達する細長の雌小穂を奇型的に生じ、雑種性を示唆している。雌花鱗片は披針状長楕円形、長さ4-5 mm、鋭一鈍頭、濃紫褐色で中脈は淡緑色、雌花鱗片の形、大きさは両母種の略中間。果胞は広卵形、長さ約3 mm、膜質、灰緑色、平凸形で小点を密布し、不明の数脈がある。喙は長さ0.5mm位、果胞の縁辺とともに小刺がある。口部は2微齒あるか全縁。果胞の形、大きさにおいても両種の中間形質を持つ。密に小点を生じること、細脈を有すること、口部がほぼ全縁であることなどはホロムイヌゲ、喙は短いが明瞭であること、小刺を生じる（ホロムイヌゲにも稀にあり）ことはサドスゲの特徴である。柱頭は2、太さは中間的で5 mm位（サドスゲはより細く長い）、宿存する。瘦果は小さく長さ約1.5mm、ゆるく果胞に包まれる。

(Received May 4, 1987)

○ イヌトクガワザサの新産地 (小林幹夫*) Mikio KOBAYASHI*: New Locality of *Sasa scytophylla* MAKINO

本種はトクガワザサ *Sasa Tokugawana* MAKINO の葉の下面に毛の無い形態のものであるが、その産地は滋賀県伊吹山(鈴木貞雄, 日本タケ科植物総目録, 1978)および四国石鎚山系の一部(鈴木貞雄, 植研 60: 338-342, 1985)にしか知られていない。

私は過日(1986年12月)、里見信生氏**の未同定のタケ・ササ類の採集品を見る機会を与えられたが、その中に本種と同定される採集品を見出したので、本種の分布を知るうえで貴重な標本と考え、ここに報告する。

採集地: 京都山城貴船, 採集年月日: 1954年10月31日, 採集者: 里見信生。

トクガワザサは伊豆半島周辺に分布が限られているのに対して、イヌトクガワザサの産地は、イブキザサ *S. Tsuboiana* MAKINO の分布の中心地内(琵琶湖周辺および石鎚山系)に限られている。ササ属アマギザサ節内において、イヌトクガワザサはトクガワザサよりもむしろ、イブキザサに、より近い位置にあるのかも知れない。標本を閲覧する機会を与えて下さった金沢大学理学部里見信生先生に感謝します。

(Received Jun. 28, 1987)

* 宇都宮大学教養部生物学研究室, Department of Biology, College of Liberal Arts, Utsunomiya University

** KANA 20328 に登録。